

大崎町SDGs推進協議会は、20年以上、住民の方々が積み重ねてきたリサイクルの取り組みを土台に、循環型のまちづくりを、より多面的に世界に向けて展開するため2021年4月に設立されました。

現在の参画団体は大崎町、鹿児島相互信用金庫、株式会社そらのまち、株式会社南日本放送、合作株式会社です。

協議会の事務局は、昨年7月に大崎町に設立された合作株式会社が担当しています。

このページでは毎月

「いっしょに! OSAKINI プロジェクト」と題して

協議会の活動をご紹介します。



中垣る (なかがきる)
事務局 広報/PR担当
所属: 合作株式会社

こんにちは。毎日暑い日が続きますが、みなさん夏バテ等になっていませんか？
私は大好きなスパイス料理を食べて、元気に活動しています!!
さて今月は、私たちが事務局を務める大崎町SDGs推進協議会について、ご紹介します。
長くて漢字が多い名前ですし、「何をやる組織なの?」と疑問に思っている方も多いはず。
少しでも、どんなことをしているのかお伝えできたらと思います!

協議会ができた理由



大崎町は1998年から、ごみを細かく分別しています。そのおかげで、リサイクル率日本一を、13回も獲得! 他の地域に先駆けて、循環型の社会づくりをおこなってきました。けれど、実際に大崎町に流通している商品は、町外で作られたものが中心です。**よそから来るパッケージや袋などが減らない限り、ごみも減らず、分別の負担も減りません。**そこで、町外の企業や環境問題に詳しい研究者の方々を大崎町に呼び込み、分別やリサイクルを、より前向きかつ楽しくできるように、行政と民間企業が連携した協議会が設立されました。

協議会には誰が参画している?



大崎町



鹿児島相互信用金庫



株式会社そらのまち



株式会社南日本放送



合作株式会社

協議会が大崎町と目指す目標3つ

大崎町は、2030年までに住民の皆さんがもっと便利に生活できるように、お店や、ものづくりをしている会社と協力して、次のような社会をつくる目標を掲げています。協議会は、大崎町と一緒に、この目標の達成に向けた取り組みを実施していきます。

1

2024年までに
町内で販売される**すべての消費財で、**
使い捨て容器に代わる、
もっと便利な手段を提供する

2

2027年までに
その**便利な手段の**
普及率 **80%** を達成

3

2030年までに
使い捨て容器の
完全撤廃・脱プラスチック
を達成

もしこの3つの目標が達成できたら、日々の生活がもっと便利になると同時に町内だけでなく、隣町や鹿児島県全体、もしかしたら日本や世界まで(?!)変えられる新しいエコな仕組みや地球にやさしい商品が、大崎町からうまれるかもしれません。